



2010 第66号 平成22年10月15日 発行：熊本県人吉市議会/編集：議会報編集委員会

市のホームページからでもご覧になれます。

<http://www.city.hitoyoshi.lg.jp>  
E-mail [gikai@city.hitoyoshi.lg.jp](mailto:gikai@city.hitoyoshi.lg.jp)

## 議会制度研究会報告

●委員長 立山 勝徳 ●副委員長 森口 勝之  
●委員 松岡 隼人・豊永 貞夫・川野 精一・松田 茂  
永山 芳宏・本村 令斗・仲村 勝治・下田代 勝

7月15日発行の議会だよりで中間報告をいたしました  
が、それ以降の取り組みについて概略を報告いたします。

市民各団体との意見交換会は、8月25日まで開催いた  
しましたが、町内会長囑託員連合会代表、民生委員児童  
委員協議会代表、農業委員会、労働団体代表、体育協会  
代表、商工会議所青年部、PTA連絡協議会代表、子ど  
も会育成連絡協議会代表、商工会議所代表、老人クラブ  
連合会代表、JA 球磨生産者代表、そして最後に公募に  
よる市民の方々との意見交換会で 11 回にわたって開催  
させて頂きました。この会議では、たくさんの質問、意見、  
要望、提言、苦言などを頂きましたが、同時に、市民の  
皆様方が、議会制度や議員活動の内容について、私達が  
予想していた以上に御理解を頂いていないことも、改め  
て認識を致しました。これは私達議員の努力不足ではな  
いかと反省した次第です。私達研究会のメンバーは、市  
民の皆様方の各々の発言を真摯に受け止め咀嚼しなが  
ら、各々の議員の判断や考えを醸成してきたと思います。  
従って研究会の会議運営にあたっては、各議員の判断や  
考えを最大限尊重しながら進めてきました。

昨年12月以来、22回にわたって会議を開催しながら、  
研究検討を進めて来た課題は次の通りです。議員定数、  
議員報酬、費用弁償、政務調査費、委員会の行政視察、  
個人研修、議会だより、各議員の広報、一般質問、会期  
日程、表決、議員立法、通年議会、議会基本条例、議員

採点（五木方式）、会派、議員年金、議会報告会、議会傍聴、  
選挙費用、以上の20項目であります。

これらの課題に発言をされました市民の皆様の見も  
多種多様でありました。特に議員定数と報酬問題は、関  
連づけての意見が多かったのは、雇用や賃金、経済問題  
の厳しさの反映だと思えます。また、定数に関しては、  
コスト論からの主張、人口論からの、市民ニーズ論から  
の、チェック機能論からの主張など、立場や視点によっ  
て多様な意見を頂きました。

研究会としての視点は、市民や地域の市政に対する意  
見、要望等を的確に把握し、それを市政に反映すること、  
市長や執行部の行政をチェックし、専横に陥ることなど  
がないように、議会機能の維持、向上を目指すとともに、  
市が従来から進めてきた行財政改革の視点に立った議会  
の判断も必要であります。研究会としては、そのような  
スタンスに立って委員自身の自主的な判断の結果とし  
て、議員定数については、現行20人を良しとする意見、  
2人を削減して18人とする意見に分かれ、意見の一致に  
は到りませんでした。

最後に、意見交換会に御協力を頂きました各団体と御  
出席頂きました皆様にお礼と感謝を申し上げるととも  
に、その意を体して、市の発展と市民の皆様幸せを願  
って頑張りますので、今後とも、よろしくお願い致しま  
す。

## ◆◆費用弁償を廃止!◆◆

9月定例会において、議会制度研究会の報告を受け、議員提案による人吉市議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案が可決され、平成22年10月1日から費用弁償が廃止されることになりました。

また、議員定数を20名から18名にする定数削減案も議員から提案されましたが、賛成少数で否決となりました。

## 総務文教委員会報告

●委員長 下田代 勝 ●副委員長 川野 精一  
●委員 西 信八郎・永山 芳宏・本村 令斗・仲村 勝治・大王 英二

本委員会には、条例案件2件、補正予算案件3件、陳情案件1件が付託をされました。

条例案件は、議第81号人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定は、児童扶養手当法の一部改正施行に伴い、父子家庭も児童扶養手当の支給対象となることにより、非常勤消防団員等に年金として支給される損害補償と、父子家庭に支給される児童扶養手当等が二重支給とならないように受給調整を行うものです。審査の中で、他の非常勤職員が被災した場合にはの間に、市条例に基づき市が補償を行う。この場合も遺族補償年金の場合には、児童扶養手当との受給調整が行われるとの応答がありました。

議第82号人吉市公民館条例及び人吉市コミュニティセンター条例の一部改正は、人吉市東西公民館及び人吉市東西コミュニティセンターの工房に冷暖房料を新たに規定したものであります。議第81号、議第82号は、審査の結果異議なく認めることに決しました。

一般会計補正予算歳出の主なものは、2款総務費の中で7目企画費委託料に人吉ICバス待合所改修計画書作成のため、285万円が計上されています。10款教育費5目文化財保護費に13節委託料として人吉城跡園路整備実施測量設計に、190万1千円、中世城跡（上原地区）試掘調査委託料に、265万7千円があります。19節補助金には、青井阿蘇神社屋根葺替事業費として、490万7千円

があります。

人吉球磨地域交通体系整備特別会計補正予算は、くま川鉄道線に助成のため、基金から4,137万5千円を繰入れ補正をするものです。取崩し可能な基金残高、8,285万8千円は、今後緊急時（災害等）のために備えることとしています。この他に人吉市カルチャーパレス特別会計があります。

付託を受けました補正予算案件については現地調査を含めいずれの案件も慎重に審査の結果、全会一致で認めることに決しました。

陳第33号大塚小学校の廃校及び社会教育施設としての利用に関する陳情は、地元事情、人吉市の対応を見極めて採択をいたしました。



大塚小学校を視察する総務文教委員会

## 厚生委員会報告

●委員長 田中 哲 ●副委員長 松岡 隼人  
●委員 豊永 貞夫・笹山 欣悟・三倉 美千子・蓑毛 正勝

本委員会に付託されました主なものをご報告いたします。〈条例案件〉人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ条例は、子育て中の親とその子供、子育てを支援する地域の人々が気軽に集い、相互に交流する場を提供すること等により、地域の子育て支援機能の充実を図るために、人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブの設置及び管理について、地方自治法により条例を制定するものです。全員異議なく認めることにしました。

〈予算案件〉平成22年度人吉市一般会計補正予算（4号）では、民生費の老人福祉費に、3,219万2千円追加してあります。これは高齢者住宅改造助成事業補助と、地域密着型サービス拠点等整備補助金で、グループホーム御薬園のスプリンクラー設備整備補助金、それに現在開設中の、グループホーム2ヵ所と、小規模特別養護老人ホーム1ヵ所分に対する施設開設準備経費助成特別対策事業補助金であります。なお今年は東・西圏域にグループホームすずらん。東間・大畑圏域に小規模特別養護老人ホームアゼリア。西瀬・中原圏域にグループホームローズヒルが事業決定を受けまして、開所に向け現在準備中であります。衛生費で環境衛生費の81万円の補助金は、上戸越町落地区飲料水供給施設に対する整備補助金です。全員異議なく認めることにしました。

次に7件の特別会計を審査しています。平成22年度

人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）は、保険税の本算定及び平成21年度決算、概算納付金の確定のほか新規モデル事業等による補正であります。支出で、総務費の医療費適正化特別対策事業費に14万円追加してあります。これは熊本県国保連合会が厚生省の補助を受けて、熊本市と人吉市を対象に実施するモデル事業でありまして、調剤レセプトデータに基づき、40歳から75歳未満の生活習慣病に伴う慢性疾患対象薬を処方されている方に、ジェネリック医薬品に変更した場合の効果額（差額）等の情報提供を行うものであります。人吉市の対象者を最大で2千人見込んだ額であります。

ほかに6件の特別会計も慎重審議いたしまして、7件とも全員異議なく認めることにしました。



上戸越町落地区飲料水供給施設整備箇所を視察する厚生委員会

## 経済建設委員会報告

●委員長 森口 勝之 ●副委員長 松田 茂  
●委員 井上 光浩・村上 恵一・福屋 法晴・立山 勝徳・山下 幸一

本委員会に付託されました、平成22年度一般会計補正予算のうち労働費、農林水産業費、土木費、商工費、災害復旧費について審査の結果、主なものについて報告いたします。

### 【土木費関連について】

先の6月定例会における土木費の補正予算は、僅か6万円の追加に止まっておりますが、この度国の補助事業である社会資本整備総合交付金7,600万円余りが交付決定したことにより、一般財源分も含めて市道14路線の道路改良及び舗装修繕工事を実施できることになりました。景気対策の起爆剤とまではいきませんが、このような公共事業が少しでも地元経済の浮揚と市民生活の利便性向上につながればと思っております。

### 【労働費関連について】

緊急雇用創出推進費として1,893万円の追加補正も認めております。これは昨年同様、年末年始を迎えるにあたり越年資金の確保も含めた緊急的な雇用対策ということで、事務系4名、作業系18名、合計22名の雇用を見込んでおります。

### 【商工費関連について】

地上デジタル放送は来年7月からの完全実施となっておりますが、市内の難視聴地域の解消に向けた対策として、今回2件分の追加予算が計上されました。いずれも国の補助金を活用するものでありますが、1件は西間蓬来山地区の灰久保町、西間下町、矢黒町のそれぞれ一部

をカバーするもので、予算額は1,200万円であります。もう1件は市営鶴田団地、一本杉団地2号棟、門前団地に共聴設備を設置するもので、予算額は1,220万円であります。なお、大畑地区、田野地区、中神町段山地区については既に事業が開始しております。以上、予算案件については、全員異議なく認めることに決しました。

### 【陳情案件について】

この度の口蹄疫発生により、人吉球磨管内でのセリ市が延期されたことに伴い、子牛出荷の遅延に対する助成を求める陳情が人吉市畜産会から提出されました。出荷予定であった畜産農家の方々の飼料代に対する負担は厳しいものがあり、全会一致で採択いたしました。

なお、歴史ある曼茶羅川の再生を願う陳情は、継続して審査することにいたしました。



人吉中核工業用地建設廃土受入状況を視察する経済建設委員会

## 予算委員会

●委員長 三倉 美千子 ●副委員長 井上 光浩  
●委員 全議員

本委員会に付託を受けました議第69号平成22年度人吉市一般会計補正予算（第4号）のうち第1条歳入歳出予算の補正のうち歳入（全款）並びに第2条地方債の補正につきまして審査の結果を報告いたします。

今回の補正予算は、4億5,934万7千円を追加し歳入予算額を143億797万円とするものですが、そのほとんどが、国庫補助金、県補助金の交付額の確定や臨時財政対策債の発行可能額が確定したことによる補正及び国、県の補助事業の内示及び交付決定などによ

る補正です。

質疑の主なものとして、国民健康保険基盤安定負担金の熊本県と人吉市との分け方は。安心生活創造事業費補助金の算定基準は。特定鳥獣適正管理とはなにか。里山エリア再生交付金事業費交付金に代わる事業は。産業廃棄物最終処分場周辺環境整備等補助金は今年度でなくなるのか等があり、執行部からの答弁を受けました。

全委員による審査の結果、原案どおり決しました。

## 議会運営委員会

●委員長 永山 芳宏 ●副委員長 西 信八郎  
●委員 松岡隼人・福屋法晴・森口勝之・田中 哲・立山勝徳・下田代勝

9月定例会の開催にあたっては、採択・閉会までに7回の議会運営委員会を開き①提出議案、陳情、会期日程、議案質疑及び一般質問の取扱いについて、②委員会付託、陳情、議員の派遣、閉会中の継続審査について、③連合審査会開会について、④議会報告会について、⑤追加提出予定議案等について、決算特別委員会の設置、議会制度研究会委員長の報告について、⑥意見書案について、発議について（人吉市議会の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

制定について）、⑦発議について（人吉市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について）提案のあり方について審議いたしました。

今議会も15名の議員が、一問一答制の一般質問で、市長、教育長、各部長と白熱した議論を展開しました。

※連合審査会とは、案件の付託を受けた委員会と他の関連する委員会と合同で審査を行うために開かれるものです。

## 球磨川水系の治水及び防災に関する特別委員会

●委員長 山下 幸一 ●副委員長 村上 恵一  
●委員 井上 光浩・豊永 貞夫・川野 精一・森口 勝之  
田中 哲・本村 令斗・下田代 勝

今議会における本特別委員会の開催は9回目の開催となります。

今回は、「国土交通省及び熊本県との意見交換会の総括について」、「第8回ダムによらない治水を検討する場の概要について」、「御溝川改修に伴うこれまでの経過について」の3項目について審議をいたしました。

国交省及び熊本県との意見交換会の総括については、質問事項10項目について一つずつ国・県の回答・見解などを改めて確認をしました。

第8回ダムによらない治水を検討する場の概要については、執行部から資料を基に審議内容について報告を受けました。

また、御溝川改修に伴うこれまでの経過については、現在計画が進められている、御溝川第2放水路の計画予定地について現地調査を行いました。この御溝川第2放水路とは、御溝川の山江川合流点付近から万江川に新たな放水路（延長1.3km）を設け、御溝川の洪水氾濫防止や軽減を図るものであります。これまでに取り組まれてきた状況としましては氾濫防止に向けた改修計画策定のため、地元の意見や要望等を反映させる

ために組織された「御溝川河川懇談会」において、既存の第1放水路と現河川のみで出水を流下させるには、相当な拡幅が必要となり、特に下流部の人家移転を余儀なくされることから、拡幅は極めて困難であり、次の4つの方法によって洪水処理を行うことが望ましいとの提言がなされております。まず1点目は、御溝川の山江川合流点付近から万江川に新たな放水路を設ける、これは現在計画が進められています御溝川第2放水路のことであります。2点目は、御溝川の鷹木川合流点付近から山田川に新たな放水路を設ける。3点目は、現河川の改修は必要最小限にとどめる。4点目は、下水道事業によって雨水管を埋設し、これを山田川に放流する計画を関係部署にお願いする。このような提言を受け、御溝川の管理者である熊本県においても検討され、これとは別に短期整備として改修計画を予定されておりますが、一向に進んでいない状況に対し、現段階の対策として御溝川と鷹木川合流点付近から山田川へ新たな放水路を設ける案について、早急に実施されるよう、県に対しより強力に働きかけを行っていくことを確認し閉会しました。

## 公益的施設の適正配置に関する特別委員会

●委員長 立山 勝徳 ●副委員長 三倉 美千子  
●委員 松岡 隼人・笹山 欣悟・西 信八郎・松田 茂  
永山 芳宏・福屋 法晴・仲村 勝治

※人吉市総合病院の建替えについて

9月1日に開催した本委員会に総合病院側から次のような説明をされました。

(1)、基本計画は全社連から承認された。国策である耐震化整備事業は、最終調整に入っている。(2)、基本設計は8月にほぼ完了し、今は実施設計の段階で11月には完了する予定。(3)、医療施設耐震化交付金は、県の内示があり交付条件の厳守に努めている。(4)、地域住民への説明会は、9月末から10月頃には開催できると思っている。

委員からの質問に対して次のような答がありました。  
◎開発行為の許可は同一敷地内なので必要ない。◎環境アセスメントは設計会社を通して進めている。◎地下は30m程掘るが、周囲の温泉源は100m程のところにあると聞いているので影響はないと思っている。◎9階建を予定しており工事が全て終わるのは25年6月の予定である。

※旧中津留美術館跡地の活用について

市は活用方策について早く結論を出すため、「旧中津留美術館の跡地問題を考える会」を設置し、会員の意識調査を実施した。これを整理し、普通財産としての利活用、行政財産としての利活用などを中心に、場所

の特性、財政面、他の行政計画との関連などを勘案しながら協議を進めているとの説明を受け、委員からの質問があり、地元町内会長は売却を危惧して陳情が出されたがどう思うかに対して、有効利用も含めて検討中であることを、市長には伝えてある。また、図書館建設の目的ははずしたが、社会教育施設も含めて検討している。また、市民の声も聞いて進めていきたい。解体する場合は契約管財課に工事費を組むことになる。などの答弁があつています。

※遊休市有地の売却準備について

市が所有している遊休宅地を売却するための準備が始まっていますので、現地調査を行いました。次の4ヵ所です。◎二日町交番の南側隣の宅地、278.74㎡。◎願成寺町元県事務所跡地、995.08㎡。◎下青井町産交バスの道向かい宅地、200.37㎡。◎東間上町元県職員東間住宅跡地、4筆の合計921.65㎡。今後市で測量と鑑定を行った後、売却条件などを検討することになります。

※東校区18町内会長名で提出された「旧中津留美術館跡地の有効活用に関する陳情」は継続審査といたしました。

# 一般質問

## 児童クラブの現状について

立山 勝徳

問 市内の児童クラブの現状は。

答 保育園等で運営する十学童クラブがあり、平日、土曜、長期休日に合せて利用時間を設定、二十一年度利用者は四一七人。低所得者には厳しい利用料金だと聞くが。

問 各々の学童クラブで自主的に利用料金を決めており、基本利用料が月額五千円〜六千円、長期休日利用は八千円〜一万八千円となっており所得による増減はない。

問 国県の補助金はないのか。

答 補助金は各学童クラブ利用料収入の総額を上限として補助額が決定されるようになっていて、それでは、学童クラブが利用料を安くするように努力すればするほど補助金も安くなる。補助システムが不適切ではないか。

問 同感なので改善を要望する。市で主導できないのか。

答 当初学校での設置ができず保育園などに頼んだ経緯があるので現行形態を保持するが、内容については積極的に関与したい。

※他に球磨川水系の治水、くま川鉄道の経営、大畑産廃などを質問

## デイジー教科書について

豊永 貞夫

問 「教科書バリアフリー法」の改正により、特別支援学級や通級教室などで、通常の教科書と同様のテキストと画像を使用し、デジタル化対応することで、テキスト文字に音声をシンクロさせて読むことを可能にした「マルチメディアデイジー版教科書」の活用が考えられるが、本市の考えは。

答 現在、本市の特別支援学級などでは普通学級で使用されているものと同様の教科書を使用している。「デイジー教科書」については、今後国や県の動向を見守っていきたいと考えている。

問 本年、社会問題となった高齢者所在不明問題で、百歳以上の方の安否は確認が取れているが、百歳未満の高齢者の状況は。

答 介護予防事業の対象者把握のため、介護保険認定者等を除く六五歳以上の調査「基本チェックリスト」などの活用で九八・七%の確認ができています。宛先不明で返送された方などについては、担当職員による訪問や家族への聞き取りにより、全員の確認ができています。

## 市長の政治姿勢について

山下 幸一

問 市長のマニフェストの検証大会の評価や結果の市長自身の感想は。就任当時マニフェストの四〇項目の中に於いて、中止、凍結はないが、実現できなかったものは、中止、凍結とすべきと思う。中身がうまくすり替えられていると思うが市長の考えは。市長の政治姿勢はマニフェストが原点と思うが、就任以来一期四年間の最終年度を迎えマニフェストの実現は何%か。政策実現のため、来年春の市長選挙に再出馬される意志があるのか。また市民の声より、くま川鉄道関係について、前社長の給与、社員の公金流用等、また駅前開発事業について質しました。

答 マニフェスト四〇項目は、それぞれの分野に掲げさせて頂いた。その中の殆んどが総合計画の中に含まれている。マニフェストの評価は途中であり、自ら評価を示すべきではない。来年度の市長選挙再出馬については、マニフェスト実現に邁進している。余裕ができたなら、考えてみたい。くま川鉄道の公金流用は調査したが、そのような事実はなかった。

## 畜産振興に対する取組み姿勢について

笹山 欣悟

問 今回、人吉市畜産会から陳情書が提出されているが、それまでの経緯について、執行部はどう対応したのか。

答 市長へ要望書、議長へ陳情書が提出されているが、球磨郡の町村が出荷遅延補助金を交付されていることから、同様の取組みを行ってほしいとお願いに来られた。国・県の支援策も具体的に実施されていない状況ではあるが、何らかの支援策を講じるよう市長から指示を受けているところである。

問 具体的な支援策はあるのか。

答 終息宣言を待って、これまで検討してきた内容を検証する手順を踏まえたかった。そこで、すべての畜産農家に対して、一戸当たり二万円の口蹄疫見舞金制度を実施したい。早急に交付要項を定め、今議会に当該予算を追加提案させていただきたい。

※その他、人吉市行財政経営検討委員会設置条例の一部改正、給食調理業務の委託の検証と今後の方針、スポーツバスの対応、市民プールを屋内プールに改修をについて質問しました。

## 郡市計画税について、外1件

田中 哲

問 郡市計画税について、郡市計画区域内で下水道未計画地区があり、不公平感がある。税率の見直しはできないのか。また直近五力年間の税収の増減は。市税に占める割合。県下の郡市計画税の賦課徴収の状況は。

答 制度上においては可能だが区域や税率の徹底など新たな大きな問題が生じることになり、不均一課税は大変困難である。税収は減収してきており、市税に占める割合は平均五・四%で県下の九市が賦課徴収していない。

問 都市計画は昭和四四年に策定され、四十一年も経過している。高度成長時代の計画が、少子高齢化の現在の市民ニーズにそぐわないのが現状なのは。見直しは可能か。

答 社会経済状況の変化に対応して変更が可能だが、市街地開発事業などは期間を要するので一定の継続性、安定性も求められる。区域の変更は長期的な視野で判断せねばならず、現実的にはかなり困難である。

※来年度から始まる住宅の耐震改修補助制度の内容について質した。

条件整備の履行は

川野 精一

問 汚泥再生処理センターの条件整備は履行されているか。(道路行政について)

答 広域行政組合から委託を受けた市道二路線については、ひとつが二三〇m未整備。祇園堂栗林線下林く中神町間の側溝等の整備はほぼ完了。近隣町内から市に要望のあった道路整備等は、城本西駅線と農道湯本1号線は完了。湯本後村線と下林南願成寺線は本年度着手予定。後村大坪線も早々着手したい。ただ、城本荒毛線の万江川右岸についての実施は大変厳しい。(本件については、広域行政組合と市と近隣町内間でしっかりと協議するよう要望した)

問 中心市街地活性化策検討街歩きは検証されたか。  
答 結果の取りまとめは行ったが、課題等の分析・検証までは至っていない。今後、市民との具体的な「まちづくり」の方策について、議論を深め検討していかなければならない。また、外国語表示(四力国語)の道路観光標識についても、計画的に進めていく。

世界遺産の夢と

D51復活運動について

松田 茂

問 ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の世界遺産登録とは。文化機関

答 比類なき歴史的、絶対的価値を持つ「肥薩線」を世界遺産に登録したい。一九七二年ユネスコの総会において「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」が採択され、日本も同条約を締結をした。登録の意味を端的に申し上げると「世界各地の文化財や自然環境を、人類共有の財産にして守る」ということに尽きるわけである。

問 現在登録されている鉄道世界遺産の数と、その意義とは。

答 八九〇件ある世界遺産の中で鉄道世界遺産はわずか三件しかない。またその意義は世界遺産に登録することによって価値ある普遍的文化財として全人類で保護し、未来へ残すということが最大の目的である。

問 D51復活について、具体策はあるのか。

答 熊襲、隼人文化圏観光開発構想D51復活特区の準備を進めている。税制、財政、金融の支援措置をいただけるようだ。

史跡人吉城跡

(中世・近世)の整備等

下田代 勝

問 史跡人吉城跡(中世城跡・近世城跡)は人吉球磨の地域シンボルであるがその整備方向と推進体制は。

答 中世城跡(上原)は試掘から本発掘調査を行う。近世人吉城跡は、相良神社敷地の公有化を図り、御館跡地の整備等何れも建物の復元整備に取り組みしていく。体制として学芸員の拡充を図る。

問 くまがわ鉄道活性化には提言(トロッコレース、秋篠宮殿下とナマズ水族館等)を行ってきたが、今後の整備活性化は。

答 経営の赤字補填を圏域十市町村で負担。沿線資源を生かし、明確なビジョンと戦略を進める。

問 九州新幹線と連動する肥薩線の整備は(新幹線へのアクセス沿線へ山桜植栽等修景美化は)

答 球磨地域振興局が本部となる「新幹線くまもと創りプロジェクト」で取り組む。沿線山桜植栽等は積極的に進める。

※自転車道とくまがわ鉄道の連携  
県道人吉インター線の街灯設置。  
地域生活道路(例鬼木町芦原地区)の市道編入を質しました。

口蹄疫の課題と対策は?

西 信八郎

問 畜産農家への業者からの飼料物資等の搬入や消毒の方法等の今後の防疫対策や飼料運搬車等を極力家畜に近づけない畜産農家の施設の配置等の飼育環境の改善対策についてどう考えているのか。

答 宮崎県での口蹄疫が終息したものの、依然としていつどこで発生するか安心できない状況。今後も本市の畜産農家の方々は、畜舎内外の消毒を徹底していただくよう指導している。業者からの飼料や物資等搬入の際に口蹄疫の感染が疑われるような事態も想定されることからより安全な国産自給飼料の増産・活用を推進していきたい。さらに、飼育環境の改善についても畜産農家と話し合いを十分に行いながら協議したい。

※ 畜産農家への病状の写真等を使った家畜伝染病に関する勉強会の開催と郡市が一体となり抜本的な支援等を考える会議の開催を要望しました。この他に、校区体育祭の委託料について、教育問題としてのデータDV、法教育についても質問しました。

人吉ブランド農作物について

福屋 法晴

問 大畑地区の中核工業用地確保計画・廃土搬入について、地元説明会は行ったのか。

答 地元住民・土地所有者に対し説明会を開催した。廃土搬入については、搬入目的・安全対策連絡体制などについて説明し協力をお願いの文書を配布した。

問 騒音・ほこりについての対策は、どの様にされているのか。

答 散水・防塵ネットを設置し、ほこりが飛散しないように対策を講じている。

問 人吉が取り組んでいるブランド農作物・きくらげ栽培については、市長の考えは。

答 人吉ブランドとは、同一の菌床でなければならぬ。また、取りまとめについては、今後、生産者組合と菌床製造メーカーで協議されると考える。

問 耕作放棄地が、毎年のように増加しているようだが、現状は。

答 人吉の耕作放棄地は、二六七ヘクタールで、復元不可能農地が、約四四ヘクタールであり、増加傾向である。  
※ 外国語指導助手の各学校配置を要望いたしました。

**子宮頸がん予防  
ワクチン接種、人吉梅園  
三倉美千子**

**大村横穴群崩落問題について  
松岡 隼人**

**中学校入学前に  
リテラシー教室を  
井上 光浩**

**住宅リフォーム  
助成制度の実施を  
本村 令斗**

**農業政策(利水事業)  
森口 勝之**

問 ワクチン接種の熊本県及び人吉球磨の取り組み状況は。

答 熊本県内の実施市町村は、四町。球磨郡内では現在ない。

問 ワクチンは十代前半女兒への接種が最も効果的であるが、予防の点から成人女性でも接種意義は十分あると考えられ、四十五歳までに接種することが推奨されているが、接種対象年齢は何歳か。(二十〜三十歳代のがん患者が、急増と聞く、一部でも助成できないか。)

答 公費助成を待たず接種した場合「対象年齢であれば」さかのぼって助成されるか。接種場所は。助成額は。人吉市の対策計画は。

答 二十歳以上の住民は検診を定期的に受診するよう啓発している。国の動向、近隣市町村の状況をふまえ接種対象者方法、公費助成額等については関係各部課等と協議する。すでに接種した人には国の要項等が示された時点で基準に添って検討する。

※ 他に人吉梅園内に椅子等の設置を要望しました。

問 四月二十日の大村横穴群崩落への本市の対応は。

答 不安定な岩塊をアンカーピンで固定する予定。

問 国庫補助事業の急傾斜地崩壊対策事業として採択されたのか。

答 現在、関係機関と協議中。

問 壁面上部の状況は。

答 表土の掘削と保護、法面保護排水対策工事を行っている。

問 斜面の樹木等が岩盤崩壊に影響を与えていて危険だと思いが、執行部の認識は。

答 岩盤に悪影響を与える樹木があると認識している。

問 人吉西小、竹坂の法面は安全か。

答 安全とは言いきれないので、調査を行う。

問 斜面に立つ樹木への対応と横穴群の抜本的な対策を取るべきだ。本市の考え、方針は。

答 市民の生命、財産を守ることを第一に考え早急な対応を図る。

問 不妊症や不妊治療を行う方に対して、情報提供、啓発、金銭的支援を行うべきだ。

答 現状を把握していないので、まずは、調査を行い、必要であるならば、策を講じていく。

問 「夏休みリテラシー教室」に対する保護者からの感想は。

答 実施日や時間は「ちょうどよい」と約九割が回答。

問 今回の実施は小学三年生を対象に行ったが、各学年に広げる方向性は。

答 対象学年を一学年でも増やせるように学習サポーターの人数確保や開催時期を検討したい。

問 小学六年生から中学一年生に上がる春休みに実施できないか。

答 中学校入学前に小学校の復習を行うことは非常に重要と考えるが、年度末、年度始めで、関係者も非常に多忙な時期で準備や運営は厳しい。

問 公共交通空白地帯の解消に向けた路線バスによる新規路線について。

答 県内の事例、新規四路線及び既存のバス路線の利用状況、費用対効果を考慮し今後路線バス全体の見直しを検討したい。

問 矢岳、大畑校区、桑木津留等(仮称)福祉バス、福祉タクシートの導入はできないか。

答 山間部をきめ細やかに巡る交通手段を検討していきたい。

問 住宅リフォーム助成制度は、持ち家住民の要求や建設業者の仕事と雇用促進に配慮するもの。兵庫県明石市は、この事業の経済波及効果が、一〇・九四倍と抜群に高いことを報告している。人吉市も実施してはどうか。

答 財政上厳しいが、検討したい。

問 所在不明の高齢者の問題が、衝撃を与えている。高齢者の実態把握は、自治体の責務。介護予防事業の基本チェックリストにより実施把握を行っているが、今後も全対象者に毎年度にわたって配布・回収していくべき。

答 今後も毎年度行うが、対象者の範囲は検討したい。

問 一人当たりの国保税は、県下で一番高い。①市民が使う医療費が、一番なのか吟味する。国保から払われる保険給付費は、県下四七市町村で何番目か。②平成二二年度末の基金残高と、翌年度への繰越金はいくらか。③一般会計からの繰り入れも増やし、国保税を引き下げるべき。

答 ①十番目。②二億三、一一一万円、三億四、八六四万円。③財政状況も厳しく困難と思われる。

問 国営による川辺川総合土地改良事業(利水事業)のこれまでの経過と現状について。

答 平成二十年四月に一時休止となつて以降、農水省の既設導水路活用案に対して、関係六市町村長会議、相良村議会、人吉土地改良区ともに賛成しているが、相良村土地改良区の同意が得られていないため休止状態のまままで今日に至っている。

問 休止時点での事業進捗率は。

答 総事業費三七六億円のうち実施済額一八八億円で五〇%。

問 同事業に対して既に一八八億円の国家予算が投入され、更に同額程度の事業費が残っているというのは盆地内の経済効果の面からしても、もったいないではないか。また百太郎溝、幸野溝に続きこの北部用水路の完成こそ人吉球磨盆地の農業振興に欠かせないものと考えているが、市長の考え、決意を示してほしい。

答 上原田台地をはじめ球磨北部台地に水を届けたい思いは強くなる一方である。今後は相良村土地改良区や関係機関と協議を詰めて年度内解決を図りたい。

### 平成21年度 決算特別委員会を設置

平成21年度の決算を審査する決算特別委員会を設置しました。委員会は閉会中に審査を行い、12月定例会で結果を報告します。

委員長 村上恵一

副委員長 井上光浩

委員 松岡隼人、西 信八郎、松田茂、  
立山勝徳、三倉美千子

9月定例会において次の意見書を可決し、関係機関へ提出しました。

○公共交通機関への支援を含む総合的な交通体系の構築を求める意見書

(要旨抜粋)

- 1 公共交通機関の安定的な運営を踏まえて、総合的な交通体系の構築を図ること。
- 2 高速道路等と競合し影響を受けるJR、バス、フェリー等の公共交通機関に対しては、減収補填を含め、事業者の実情を踏まえた支援を講じること。
- 3 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の持つ利益剰余金については、国庫に返納させることなく、JR九州をはじめとするいわゆるJR三島会社及びJR貨物の財務基盤の安定化や収益基盤の強化のため有効活用できるようにすること。

### 請願・陳情書の審査結果について

委員会	請願・陳情の内容	審査結果
総務文教委員会	改正国籍法に関する意見書の提出を求める陳情	継続審査
	多目的運動広場建設に関する陳情	継続審査
	大塚小学校の廃校及び社会教育施設としての利用に関する陳情	採 択
厚生委員会	介護保険制度見直しに関する陳情	継続審査
経済建設委員会	セリ市延期による子牛出荷の遅延に対する助成を求める陳情	採 択
	歴史ある曼茶羅川の再生を願う陳情	継続審査
公益的施設の適正配置に関する特別委員会	元中津留美術館跡地の有効活用に関する陳情 (H22年.4.27 提出)	撤 回
	〃 (H22年.9.6 提出)	継続審査

### 【議会の主な行事】

(平成22年7月～9月)

#### 9月

30日 厚生委員会  
29日 厚生委員会  
28日 議会報編集委員会(9月議会分)  
27日 議会報編集委員会  
22日 決算特別委員会  
21日 議会運営委員会、全員協議会  
15日 全員協議会  
15日 議会制度研究会  
14日 予算委員会、公益的施設の適正配置に関する特別委員会  
13日 経済建設委員会、厚生委員会、総務文教委員会、厚生委員会、経済建設委員会、厚生委員会  
10日 経済建設委員会、総務文教委員会、厚生委員会  
9日 議会報編集委員会  
3日 予算委員会、連合審査会、全員協議会、議会運営委員会  
1日 議会制度研究会、球磨川水系の治水及び防災に関する特別委員会

#### 8月

31日 全員協議会  
31日 議会制度研究会  
25日 議会制度研究会  
23日 議会制度研究会  
20日 議会制度研究会  
10日 議会制度研究会  
6日 議会制度研究会  
3日 議会制度研究会  
3日 南九州中部市議会議長要望会

#### 7月

27日 南九州中部市議会議長要望会  
26日 南九州中部市議会議長要望会  
21日 南九州中部市議会議長要望会  
15日 南九州中部市議会議長要望会  
14日 南九州中部市議会議長要望会  
8日 南九州中部市議会議長要望会  
6日 南九州中部市議会議長要望会

### 編集後記

灼熱の夏が過ぎ、ようやく秋の到来となりました。懸念された栗・稲作も持ち直したと言われています。黄金の穂波にコンパインの音が軽快に響いています。九月議会も十五名の議員が、市の施策について、市民の身近な課題、問題について質しました。

特に今議会では、議会制度研究会の研究結果を報告いたしました。二十二回に及ぶ研究会。町内会長囑託員連合会を初め、十一団体等との協議会を行ってきま

た。二十項目の研究課題の中から、費用弁償、月額千七百円を本年十月一日から撤廃。常任委員会研修費二万円の削減・六校区にて、議会報告会の実施・議員定数二〇名から二名減は否決となりました。傍聴席では多くの市民が静観をされていきました。議員は各々がその責務で精一杯頑張っていますが今後さらに、論議・活動を高めてまいりたいと存じます。

(文責：下田代勝)

#### 【議会報編集委員会】

委員長 大王英二  
副委員長 養毛正勝  
委員 松岡隼人 井上光浩  
松田 茂 田中 哲  
本村令斗 下田代勝

次の定例会は十二月です